

京都府下近年出土の鏡に就いて

樋 口 隆 康

この四、五年の間に京都府下から発見された鏡のうち、注目される物を取り上げて、私見を述べてみよう。

1. 三角縁銘帯三神四獣鏡 径22.1㎝

城陽市久世大谷芝ヶ原11号墳第1槨出土^(注1)

舶載の三角縁神獣鏡の新資料である。内区の主文は四個の乳で四分割された中に、双神像と双獣形を交互に配し、神・獣の頭を中心鈕の方にむけた式で、その双神の一つが所謂松笠文様に置き換えられているため、三神四獣となったのである。神像の一神は三山冠をつけた男像で、他の双神は双髻の女像である。獣はお互いに向かい合い、何れも口に巨を銜えている。

銘帯は20個の有心円圏文の間に銘を一字ないし二字ずつ入れている。但し、円圏文と銘字との間には鋸歯文が一ないし三個ずつはいつている。ないところもある。これは当初鋸歯文帯があった所、それを削去して、銘文と円圏文とを入れたようである。

銘は二二字ある。

吾作明竟甚大好，上右百鳥不知老，□□青竟日出卯兮

最初の四字以外は反字である。

本鏡と同型とおもわれる鏡が尼崎市水堂垣之内水堂古墳から出土(尼崎市史第1巻)している。この鏡はかなり痛んでいて、青錆が厚く覆い、割れた所を修補しているため、主文の四獣は良く見えるが、神像ははっきりしない。径も22.8㎝ないし23.4㎝あるが、修理しているため不正確である。銘帯も鋸歯文の間に有心円圏文と銘をいれているが、「竟甚大好上」と「青竟日出」^(注2)までが読み取れる。

この種の鏡の形態的特徴としては、銘帯の内側、即ち主文区との間の界圏が尖頂の突帯となり、その内斜面に鋸歯文帯、外斜面に半円帯を付けている。このような界圏を持った例は宇佐市高森赤塚古墳出土三角縁唐草文帯二神二獣鏡、柏原市国分茶臼山古墳出土三角縁銘帯四神二獣鏡、滋賀県野洲郡野洲町古富波古墳出土同式鏡、奈良県北葛城郡河合町佐味田宝塚古墳出土三角縁唐草文帯四神四獣鏡などの比較的精緻な類に多い。

また、本鏡のもう一つの特徴は銘帯の銘の間に、有心円圈文を入れていることである。同例としては、鳥取県西伯郡会見町普段寺山古墳出土三角縁二神二獸鏡、岡山市湯迫車塚出土三角縁二神二車馬鏡(他に同型三面)、三角縁二神一獸車馬山岳鏡(他に同型二面)、滋賀県野洲郡野洲町小篠原大岩山古墳出土三角縁二神二獸騎馬車馬鏡、柏原市国分茶臼山古墳出土三角縁四神二獸鏡、京都府相楽郡山城町椿井大塚山古墳出土三角縁四神二獸鏡(他に同型三面)などがある。

本鏡は上記の諸鏡と関係が深いと見られるが、そのうちでも次の二面と特に近いようである。一つは鳥取の普段寺山古墳鏡(樋口隆康『古鏡図録』図223)である。この鏡の銘は二一字で、一般の銘式とはことなり、寧ろ本鏡の銘と似た特徴を持っている。その銘は「惟念此竟有文章、売者壺寿為侯王、上有申鳥在中央」とある。その中の「上有申(神)鳥」は本鏡の「上古(有)百鳥」と通じている。普段寺山鏡は三角縁神獸鏡のうちでは最も古いタイプの鏡と考えられるものである。

次ぎに関係が深いのは柏原市国分茶臼山古墳鏡(ヒグチ252)である。その銘文の中に「用青同至海東」とあるのは、本鏡の「青竟日出卯」と如何にも関係がありそうである。卯は東南の方向で、日本を指しているようにも受け取れるのである。茶臼山古墳鏡は王仲殊氏が呉の工人渡日鑄鏡説を唱えたとき、根拠にした鏡であって、古式の三角縁神獸鏡である。^(注3)

2. 六獸形文鏡 径12.6浬

京都府北桑田郡京北町塔宮ノ谷愛宕山古墳出土^(注4)

同じ古墳から仿製鏡が三面出ている。本鏡は鈕を巡って、四つの同心圈帯があり、夫々



第1図 六獸形文鏡
(愛宕山古墳出土)



第2図 六獸鏡
(丸隈山古墳出土)

に文様をいれている。最内部の主文圏には獣形を六個の円乳の間に置いたもので、獣形は比較的原形を留めており、左向きの同形である。この主文区は幅が狭いが、内外の界圏は鋸歯文をつけた突帯である。その他の三つの副文帯には内から半円方形帯、楕目文帯、菱雲文帯となっている。

この種の獣形文鏡の原形になった中国の半肉刻獣帯鏡半円方形帯などの副文帯はない。半円方形帯は神獣鏡に広く使われ、菱雲文帯は獣首鏡や位至三公鏡にみられるものである。従って、仿製鏡は中国鏡のタイプをそのまま写したのではなく、数種の鏡の文様を任意に取捨選択したのである。

本鏡に最も類似した文様の鏡としては、福岡市西区周泉寺丸隈山古墳出土の六獣形文鏡や宝塚市雲雀ヶ丘古墳出土鏡(五島美術館蔵)がある。とくに前者は径が22.1㎝と大きい、文様の構成や作風が極めて似ており、同一地での製作をおもわせる程である。丸隈山古墳は横穴式古墳の最古式として注目されているもので、五世紀中頃の築造と言われている。

3. 六獣面文鏡 径12.0㎝

北桑田郡京北町愛宕山古墳出土^(注5)

鈕を巡って有節重弧文帯があり、そのそとの主文帯は六個の乳の間に獣面を配したものであるが、その獣面は神像の面のようにも見える。面の部分だけが肉彫りで、そのしたから細隆線で渦状の表現があり、胴か脚の変化したものかもしれない。この外圏は鋸歯文帯の突帯となり、その外に楕目文帯、二獣の鋸歯文帯がある。

類似の鏡としては、熊本県上益城郡小坂大塚出土鏡、八代市市岡町門前1号墳出土鏡、



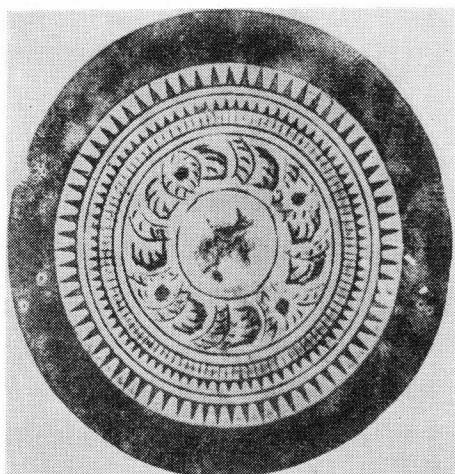
第3図 六獣面文鏡
(愛宕山古墳出土)



第4図 六獣形文鏡
(雲雀ヶ丘古墳出土)



第5図 捩文鏡(愛宕山古墳出土)



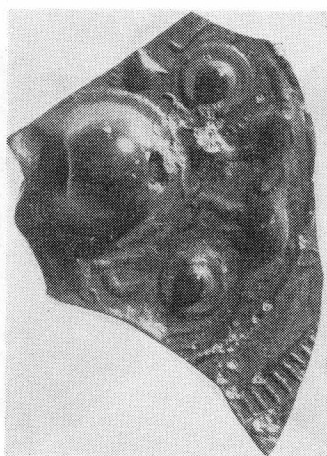
第6図 捩文鏡(赤妻古墳出土)

鳥取市久米六部山三号墳出土鏡などがあるが、いずれも細部はちがっている。龍鏡の神と獣の首が胴から離れて、一つに合体したその首だけが残ったとも見られるが、また岐阜県本巣郡糸貫町船木山24号墳出土鏡のごとく、神像だけを六個体乳間に配したものもあり、その首だけが残ったとも考えられる。

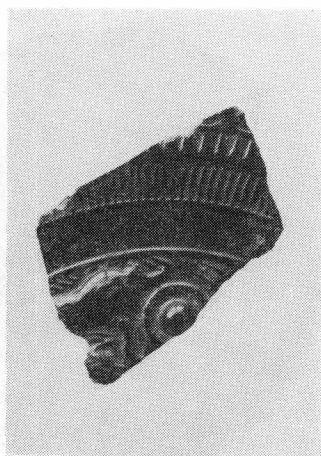
4. 捩文鏡 径10.2糎

北桑田郡京北町愛宕山古墳出土

捩文というのは、獣形の胴部だけを単位文として横に繋いだ形が、恰も捩り紐のような形を呈した所からその名がきた。ところが本鏡はC字形の胴部を縦に並べたために、タービンの羽根車の形となった。山口市赤妻古墳出土鏡や鳥取県西伯郡淀江町小波出土鏡などが最も似ている。



第7図 四乳四獣鏡片(福岡市中原出土)

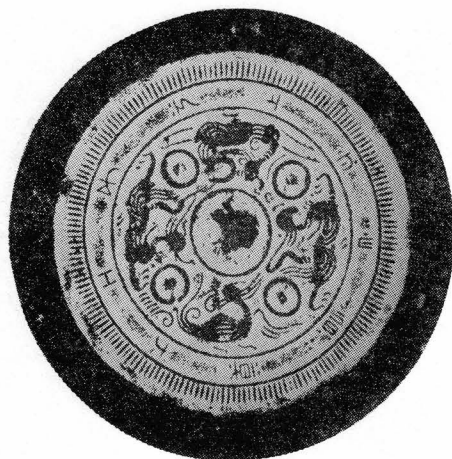


第8図 四乳四獣鏡片(狸谷17号墳出土)

5. 四乳四獣鏡片

福知山市豊富谷狸谷17号墳出土^(注6)

小さな破片であるが、主文区、銘帯、橢目文帯、鋸歯文帯の一部が見られるので、元の鏡を復元することは可能である。主文区には獣の後半部と乳がみとめられる。乳は半球形を呈し、円座を付けているところは、中国鏡の特色であり、銘の字間がかなり開いているなどから推すと、四乳四獣鏡のうち、三原市沼田東町納所馬場谷2号墳出土鏡(三原市史、図版43)、岡山県吉備郡



第9図 上方鏡

日近村吉磯尾籠山古墳出土鏡(東博9827)などがあり、本鏡片に最も近い例としては、上方鏡(簠斎蔵鏡 上十)があり、朝鮮の楽浪古墳からも出ている(梅原朝鮮資料841)。これから類推すれば、銘帯の一字は「方」らしい。即ち、獣三、鳥一の図像を四乳の間にはいしもので、銘は「上方作竟真大工」の省略形である。銘帯の外に橢目文帯があり、その外の外区には双圈の鋸歯文帯がある。その外の縁部をあわせると、径は11厘前後になる。これと良く似た小破片が、福岡市西区野方中原から出ている(福岡市資料館)。これらの小破片は装飾か護符として使用されたらしく、穿孔があり、折れた面は手磨れのあとがある。

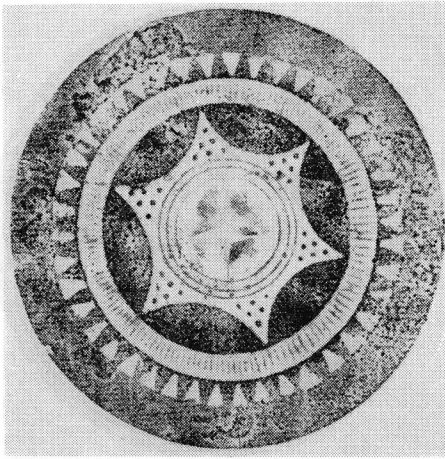
このように、再使用された鏡片の出土例は、かなりの数にのぼっており、とくに北九州地方から大分県にかけては弥生時代後期の住居址からもでている。これらは欠けたままで大切にされているので、中国で破れたものが、一括して輸入され、或いは日本の銅器、鍔



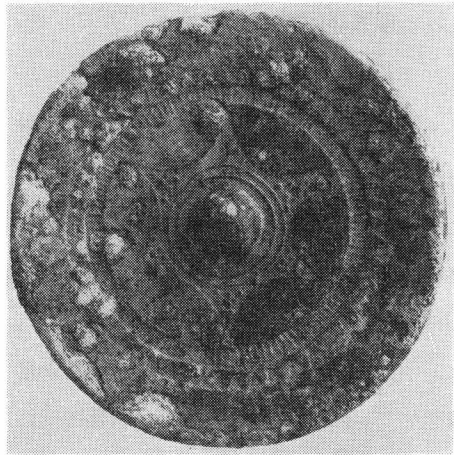
第10図 四獣形文鏡(日ノ内古墳出土)



第11図 四獣形文鏡(西山2号墳出土)



第12図 内行六花文鏡(西山4号墳出土)



第13図 内行六花文鏡(谷尾谷1号墳出土)

造の素材となり、あるいは、装身具として使われたのかもしれない。

6. 四獣形文鏡 径10.0匁

岩滝町岩滝日ノ内古墳出土^(注7)

四獣鏡の仿製品である。四乳の間に置かれた獣形は胴部だけが獣の形を残し、首と尻は鳥の形を呈している。

類似の鏡は犬山市丸山白山平東之宮古墳出土鏡があり、城陽市久世町下大谷西山二号墳出土鏡も近い。



第14図 内行六花文鏡(荒神塚古墳出土)

7. 内行六花文鏡

径7.5匁

福知山市豊富谷, 谷尾谷1号墳出土^(注6)

仿製の小型内行花文鏡である。内行花文のカーブが強く、内行花文の間に珠文がある。

その外に櫛目文帯があ

り、その外の外区に鋸歯文帯がある。類似の鏡としては香川県大川郡志度町鴨部成山古墳出土鏡(広島大学文学部考古学教室蔵)、城陽市久世下大谷西山四号墳出土鏡(京都大学文学部博物館蔵、径8.7㎝)などがある。また、綾部市豊里町三宅荒神塚古墳出土鏡(丹後郷土資料館蔵、径9㎝)は内行花文の間に珠文はなくて、三角線があり、外区には双圏の鋸歯文帯がある。

この種の小型内行花文鏡は一般に五世紀代の古墳から出ているものが多く、弥生時代の古式仿製鏡のうちの小型の内行花文鏡とは区別しなければならない。

(樋口隆康=(財)泉屋博古館館長・当センター副理事長)

注1 城陽市教育委員会『城陽市埋蔵文化財調査報告書』第15集 1986

注2 尼崎市教育委員会の御好意により、実物を調査した。

注3 王仲殊「関于日本三角縁神獸鏡の問題」考古 1981・4

注4 京北町教育委員会『愛宕山古墳発掘調査概報』京北町埋蔵文化財調査報告書第2集 1983

注5 注4と同じ

注6 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府遺跡調査概報』第1冊

注7 岩滝町教育委員会『岩滝町文化財調査報告』第7集 1985



(1) 三角縁銘帯三神四獣鏡（芝ヶ原11号墳出土）



(2) 三角縁三神四獣鏡（水堂古墳出土）